

新体制日本学術会議発足に当たり、黒川清会長はじめ、副会長の先生方から御挨拶をいただきましたので、御紹介いたします。

黒川 清日本学術会議会長

ご挨拶

新生学術会議の会長に選出されました。新制度の下で1年弱の任期でありますし、これは今までの経緯を含めてしっかり引継ぎをなささいという、新会員からの私へのメッセージと認識しています。

科学者コミュニティに内在する課題、政策提言を含めた科学者コミュニティの社会への責務、そしてダイナミックに変動する国際社会での日本の科学者たちの責任等、科学者でなければ出来ない、そして果たさなければならない課題は数多くあります。

今までの活動を踏まえ、将来への躍動する、自律した、社会的責任を果たす科学者コミュニティの核としての機能体となる会議体を構築していきたいと考えています。副会長、幹事会委員ともども、会員一人ひとりが、このようなヴィジョンを共有し、それを周囲の科学者や社会へ広げる「大使」としての役割をお願いし、一人ひとりの科学者がそれぞれの本務、会員、そして大使としての役割をはたしながら、学術会議という機能を通して何ができるか、を考えてもらいたいです。それこそが、日本社会、国際社会でのこれからの学術会議のあり方を決めていくでしょう。

一緒に仕事をする機会に感謝しています。

黒川 清

浅島 誠日本学術会議副会長

ご挨拶

第20期日本学術会議で黒川会長のもとで副会長になったが、身の引き締まる緊張感と責

任感を感じている。今期は日本学術会議における改革の時期であり、従来の学問体系制の7部制から現在の学問をアカデミックベースに総合化し、政策提言やいろいろな議題に対応していけるように機動性を持たせるべく、3部制(人文系、生命系、理工学系)に移行した。

総会、初日の会長選のあり方から討議が始まったので、何か新しい息吹を感じていた。吉川弘之元会長と黒川清前会長による学術会議の改革への理念作りと日本の科学者集団のあり方、社会や国際貢献、国際学術団体との協力など、今まで学術会議の会員でなかった私には、これだけの大改革をやるには相当のエネルギーと確固たる理念をもたなければならぬと感じていた。

そんな中で再選された黒川会長からの指名であったので私が適任かどうか、それを実行する能力と時間があるか心配であった。しかしながら、黒川会長をはじめとして総会に集まった新会員の熱い想いと期待を考えた時、今後の日本の学問と科学の発展のために微力ではあるが、引き受けることを決心した。

この改革を成功させ、日本の学術会議が真のアカデミックな集団として、研究者の意見をくみ取り、社会や政府等に提言していくことができるのか、真価を問われている。黒川会長のリーダーシップのもと、会員の方々と一緒にこの学術会議を改革し、様々な活動に最大限、努力していくつもりである。

浅 島 誠

大垣眞一郎日本学術会議副会長

ご挨拶

黒川新会長の指名により、第20期の副会長に就任いたしました。

社会には、膨大で複雑な知識が蓄積され続けています。また、科学・技術の光と影の両者が複雑に交差しています。学術的知見と社会との関係のすべてを、誰一人として説明できない時代です。日本学術会議は、このような科学を担っている人間の集団です。科学的知識を創り出し、科学を社会に提供する責任を担っている集団です。学術会議に、この科学を説明する責務があるということになります。

個々の科学者の努力に加えて、新しい学術会議に求められている責務の一つは、科学者集団の中の議論あるいは科学者集団のための議論ではなく、科学者集団の外の世界への責

務をより力強く果たすことでしょう。これが学会議の改革の目的のひとつであると理解しています。国際的には、世界の多難な課題への政策決定への貢献であり、とりわけアジア地域の科学者集団との連携です。日本社会に対しては、科学知識の社会の中での正確な意義と位置づけを示し、生活と生産の現場の人々にわかりやすく説明する責務です。さらに、次の世代への責任があります。世界の若い世代へ科学の魅力とその考え方を伝えることです。これらすべての責務に、日本の若い科学者がその担い手としてより多く参加できるようにする仕組みも必要です。

このような課題を担った新生日本学会議の出発にあたり、その発展に微力ながら貢献したいと考えています。よろしくお願い申し上げます。

大垣 眞一郎

石倉洋子日本学会議副会長

ご挨拶

新しい学会議 20 期の副会長として、黒川清会長に指名されました。過去の経緯にとらわれない自由な発言や活動、分野・年齢・性別など現在の会員構成を反映した役割を期待されてのことだと理解しています。

日本だけでなく、世界に対しても、課題を先取りし、ユニークな科学者の声を相手にわかりやすく発信することこそ、新生学会議の新しいヴィジョンだと思います。このようにすばらしくやりがいのある仕事をする機会を与えられて、感謝すると同時に圧倒されています。

会員・スタッフの方々から建設的な意見をいただき、前向きな活動を共に進め、総会で感じられた、新しい方向や成果の見える活動を求める「勢い」を続けたいと感じています。

外の世界に「自ら」積極的に参加することによって、私達自身の強みや課題を認識し、日本の科学者コミュニティが世界に貢献できる分野を見つけ、効果的な提言をしていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

石倉 洋子

【問い合わせ先】日本学会議事務局企画課広報担当

(Tel:03-3403-1906、p227@scj.go.jp)

=====

日本学術会議ニュース・メールは、転載自由です。貴団体の学術誌等への転載や貴団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

なお、御意見等がありましたら、各問い合わせ先まで、お寄せください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、p227@scj.go.jpまで御一報いただければ幸いです。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34